



"あつぱれ！（集まれ！）ふたば～未来へ"

国際フォーラム 『被災地・広野町から考える』

～"幸せな帰町・復興"に向けて～

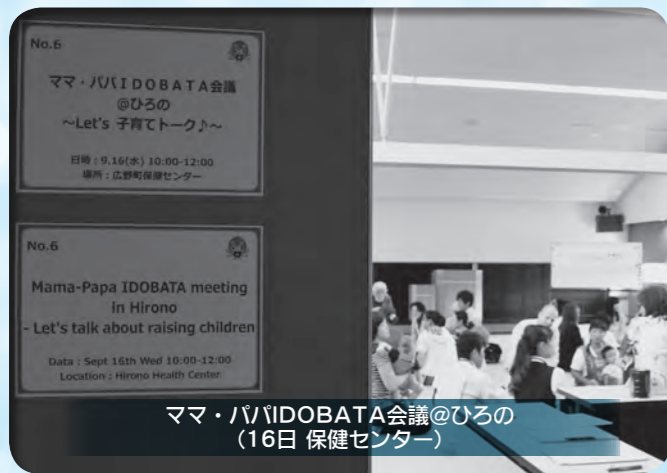
From "Early Return" to "Happy Return"



バーベキュー交流会（15日 中央体育館前）



基調講演（15日 中央体育館）



ママ・パパIDOBATA会議@ひろの
（16日 保健センター）



被災者と受入者のお茶会トーク
（16日 中央体育館）



レセプション（14日 ニツ沼総合公園）



開会式（14日 中央体育館）



広野町から考える、これからの農業と
地域づくり（17日 中央体育館）



被災地の広域連携を考える（16日 中央体育館）



中学生との懇談会（17日 広野中学校）



「広野町の安全安心」を考える（17日 中央体育館）

9月14日（月）から20日（日）にかけて、広野町で、「あつぱれ！（集まれ！）ふたば～未来へ」を合言葉に国際フォーラム『被災地・広野町から考える』～"幸せな帰町・復興"に向けて～From "Early Return" to "Happy Return"を開催しました。このフォーラムは、町民有志と被災地で活動する専門家から成る「国際フォーラム企画・運営会議」が、手作りで準備をしたものです。取り上げたテーマ（セッション）も同会議で提案、選定され、被災者の視点に立つ幅広いものとなりました。

今回の国際フォーラムは、昨年6月に開催した「国際シンポジウム『広野町から考える』～避難先からの“幸せな帰町”に向けて～」で発表された『「広野」からのメッセージ』を受け、「本音の声を交換できる場」をつくり、海外研究者を交えて広野町民の本当の「幸せな帰町・復興」は何かを探り、広野町のみならず被災地全体の復興に向けて考える機会となりました。

期間中、アメリカ、ヨーロッパ、アジア、アフリカなどから来日した15人の専門家が、いわき市四倉町鬼越応急仮設住宅に宿泊し、基調講演、被災地の復興に向けた重要な15のセッション（被災者と受入者との対話、広域連携、農業と地域づくり、風評被害対策、子育て、健康、町の安全安心など）に参加し、国際的な視野からも様々な議論が展開されました。被災地住民と海外からの参加者などが一緒に考える、被災地住民も主体的に参画するという意味で、世界的に見ても初めての取り組みになりました。

また、バーベキュー交流会、各国料理の食会、大茶会、広野昇龍太鼓の共同練習などを通じて、海外専門家が仮設住宅の住民を始めとする多くの被災地住民と交流を重ね、それが親密な異文化交流に繋がったと考えられます。

最終日には、国際シンポジウムを開催し、期間中の各セッションの報告、ブレーン・ストーミング形式で「震災、原発事故の教訓」、「今後、自分たちに何ができるか」をテーマに参加者全員でグループ討論を行いました。

最後に、双葉郡8町村が集い、参加者の総意で『被災地・広野町』からのメッセージを発表しました。詳しくは、広野町のホームページをご覧ください。

<http://www.town.hirono.fukushima.jp/kikaku/kokusaiforum.html>

- 主催：国際フォーラム企画・運営会議（事務局：広野町復興企画課）
- 共催：東京大学大学院・国際協力学専攻／情報学環総合防災情報研究センター、福島大学、東日本国際大学、福島工業高等専門学校、福島県立ふたば未来学園高等学校
- 後援：福島県、独立行政法人 国際協力機構
- 協力支援：復興庁福島復興局